



文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

20th
Anniversary
ala 開館20周年

40th
可見市制施行40周年



文化政策

Step ①

社会包摂

Step ②

マーケティング

Step ③

2022

あーとま塾

社会的共通資本としての
劇場文化Ⅱ

劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ

About

あーとま塾

「あーとま塾」は、国の定める劇場法やその指針、アールが行っている地域貢献・社会包摂に関する考え方と実践の具体例を題材に、「社会機関としての劇場の役割」を考えていく年3回の研修プログラムです。各回ゲスト講師をお招きし、さまざまな立場の関係者や市民と共にじっくり意見交換しながら、グループワークでロジックモデルを作り上げていきます。

PLACE 可児市文化創造センターala・レセプションホール

ENTRY アーラのホームページ(以下URL)から「参加申込フォーム」に必要事項をご記入のうえ、お申込みください。参加費無料(要申込)。定員30名。

【HP】https://www.kpac.or.jp/ala/event_event/artma2022/



【参加条件】●原則3回(両日)とも参加できる方。
※現地にお越しになることが難しい方には、1日目のみZOOMでのオブザーブ参加も可能です。
※定員を超えた場合には、選考を行います。

申込締切 2022年5月27日(金) 17:00

申込先・お問い合わせ 可児市文化創造センター 顧客コミュニケーション室(松浦・栗田)
電話: 0574-60-3311 Email: alamachigenki@kpac.or.jp

Step 1 文化政策

今後求められるアーツカウンシル機能と戦略的対応について

6.16(木) - 17(金)

Step 2 社会包摂

文化芸術を活かした「社会的処方箋活動」の応用と実践

9.15(木) - 16(金)

Step 3 マーケティング

地域における社会活動人材の育成と子ども支援のしくみづくり

12.22(木) - 23(金)

SCHEDULE

各回の基本のスケジュールは右記の通りです。
詳細については参加確定後、参加者へ個別にご連絡します。

※劇場に関わる最新の状況などに合わせ臨機応変にプログラム及び
ゲストを変更する場合があります。

★1日目の夜はゲストと参加者同士の交流会(交流会費は自己負担)あり

1日目 **input**
インプット
13:00~18:00

- 塾長・ゲストによるレクチャー
- 事例報告
- トークセッション

2日目 **output**
アウトプット
10:00~16:00

- グループワーク
- プレゼンテーション
- 塾長・ゲストによる講評

GUEST



塾長 衛 紀生
Kisei Ei

- alaシニアアドバイザー兼
まち元気そうだん室長



トークセッション・モデレーター
グループワーク・ファシリテーター

落合 千華
Chika Ochiai

- 一般社団法人CoAr 代表理事
- 慶應義塾大学SFC研究所 上席所属

社会的成果の言語化・評価を専門とし、主に子ども、芸術文化、コミュニティ領域の支援に従事。中央省庁、地方行政、企業や非営利組織への支援経験多数。2015年より被災地における芸術文化活動の評価支援に従事し、音楽や演劇等に関わる団体を中心に伴走支援を行う。

Step 1 文化政策 6.16.木-17.金 今後求められるアーツカウンシル機能と戦略的対応について



田代 洋久
Hirohisa Tashiro

- 北九州市立大学法学部
政策科学科教授
- 一般財団法人地域総合整備財団
(ふるさと財団)アドバイザー
芸術文化振興基金運営委員会委員

三和総合研究所(現三菱UFJリサーチ&コンサルティング)、兵庫県、兵庫県立大学を経て現職。専門は都市(地域)政策、地域マネジメント、都市文化政策。一般財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)アドバイザー、日本芸術文化振興会専門委員。著書に『文化力による地域の価値創出—地域ベースのイノベーション理論と展開』(単著2022)、『創造社会の都市と農村』(共著2019)ほかがある。

Step 2 社会包摂 9.15.木-16.金 文化芸術を活かした「社会的処方箋活動」の応用と実践



堀田 聡子
Satoko Hotta

- 慶應義塾大学大学院
健康マネジメント研究科
教授
- 認知症未来共創ハブ代表

学生時代から自立生活を送る障害者の介助等に携わり、人と地域がもともと持つ力の回復・再生の手がかりを探りながら対話と活動を続ける。その一環として地域共生の文脈から社会的処方の可能性に注目する。認知症未来共創ハブ代表、人とまちづくり研究所代表理事、日本医療政策機構理事のほか、社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会、政策評価審議会等において委員、博士(国際公共政策)。



藤岡 聡子
Satoko Fujioka

- 「ほっちのロッヂ」
共同代表
- 株式会社ReDo
代表取締役

24才で介護ベンチャー創業メンバーとして2010年に住宅型有料老人ホームを立ち上げ、アーティスト、大学生や子どもたちとともに町に開いた居場所づくりを実践。2016年より東京都豊島区にて空き家だった場所を拠点に「長崎二丁目家庭科室」を立ち上げ、町に住む高齢者から若者が知識・経験を学ぶ場所として0才から80代までのべ1,000人が通う場を運営。2018年から長野県軽井沢町にて、暮らしと医療を結びつける活動として「診療所と大きな台所があるところ ほっちのロッヂ」を医師と共同で立ち上げ共同代表。

Step 3 マーケティング 12.22.木-23.金 地域における社会活動人材の育成と子ども支援のしくみづくり



湯浅 誠
Makoto Yuasa

- 社会活動家
- 東京大学先端科学技術
研究センター特任教授
- 全国こども食堂支援センター・
むすびえ理事長

1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。2014~2019年まで法政大学教授。著書に、『つながり続ける こども食堂』(中央公論社)、『子どもが増えた! 人口増・税収増の自治体経営』(泉房穂氏との共著、光文社新書)、『なんとかする』子どもの貧困』(角川新書)、『ヒーローを待っていても世界は変わらない』(朝日新聞出版)、『反貧困』(岩波新書 第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞)、『貧困についてとことん考えてみた』(茂木健一郎と共著NHK出版)など多数。

交通アクセス 住所: 〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139



- 名鉄名古屋駅より約50分→日本ライン今渡駅下車→徒歩/10分
- JR名古屋駅より約70分→可児駅下車→タクシー/約10分 or 徒歩/30分



- 東海環状自動車道【可児・御嵩IC】から約15分
- 中央自動車道【多治見IC】から国道248号経由で約25分

旅費補助・宿泊手配制度について

宿泊を必要とする参加者を対象に旅費の一定補助と、宿泊先を無料手配する制度があります。詳細は参加確定後に個別にご連絡します。



アール感染症対策WEBページ
<https://kpac.or.jp/ala/covid19/>

アールの
取り組み

- ・アールは機械換気設備により、約25分間に1回空気が入れ替わっています。厚生労働省が示す換気量の基準を満たした十分な換気性能を有しています。
- ・館内では、マスクの着用をお願いします。
- ・受付時に検温を行います。発熱があった場合、入場をお断りする場合がございます。
- ・厚生労働省による接触確認アプリ(COCoA)のご利用をお願いします。
- ・ご来場にあたり、アール感染症対策WEBページをご覧ください。

